

## 接合科学研究所 グローバル D&I 推進室活動報告 日本語学習支援者養成プログラム(発展編)

梅田 純子

グローバル D&I 推進室 室長

接合機構研究部門 複合化機構学分野 教授

2024年6月17日(月)に2021度より接合科学研究所が本学日本語日本文化教育センター(日日センター)と連携している日本語学習支援者養成プログラムの発展編「ケースを知り、考えるー留学生や外国人研究者と共に生きる私たちができることー」を、ハイブリッドにて開催しました。日本語学習支援者養成プログラムは、本研究所に所属する日本人教職員を対象に、留学生や外国人研究者とのコミュニケーションを英語だけではなく日本語を介することで、互いが歩み寄り、さらなる研究環境の活性化を目指す取り組みです。

今回の発展編は、本研究所から基礎編と実践編を修了した10名の受講者と2名のオブザーバー、日日センターからは本プログラムの主宰者である松岡里奈特任講師のほか、前センター長の加藤均特任教授、ゲストとして金珠特任研究員、マテイ・ヴルボウスキー特任助教、スワッターナー・デンスパー招へい研究員(タイ国泰日工業大学国際ビジネス日本語学科長)が参加しました。

これまでの基礎編と実験編では、外国人研究者らと関わる上での言語や姿勢面での配慮などについて理解を深めてきました。今回の発展編では、日日センター所属の外国人研究者が日常生活の中で体験したことから、どのように感じているのかを聞き、受講者は外国人研究者/当事者の視点となって様々な考えを共有しました。4つのケース学習を通じて、文化の違いを認識するだけでなく、特別扱いせず、思い込みにとらわれてコミュニケーション不全になることを避けるため、外国人という枠組みで判断せずに個人として捉える必要性を学びました。また、外国人研究者と受講者が意見を交わすことで、多様な価値観に触れて互いの違いを尊重するとともに、自身の内面認識を問い直す機会にもなりました。

また、来週からは本研究所に特化した日本語初学者向け講座「理系 VOD 日本語コース」が、日日センター藤平愛美准教授によって開講され、5名の外国人教員・留学生らが受講予定です。

今後も、本研究所に在籍する全員の多様性を活かし、誰もが学びやすい・働きやすい場を構築するため、ダイバーシティ&インクルージョンの推進に積極的に取り組み続けます。

